

**令和5年度 関東森林管理局 保護林モニタリング評価専門委員会
議事概要**

日時：令和6年2月8日（木）

場所：関東森林管理局5階中会議室（群馬県前橋市）及び
日林協会館会議室（東京都千代田区）、Web 開催

（1） 令和5年度保護林モニタリング調査結果及び現状評価について

（各保護林について）

○奥鬼怒生物群集保護林について

- ・湿原部分のシカ害への課題について、「多雪地域であるため防護柵以外の生息密度管理等の対策を講じるべき」とあるが具体的に想定される対策等についてはどうか。

○南アルプス南部光岳森林生態系保護地域について

- ・「現地調査の実行性について十分な検討が必要」とは、具体的にこれまでのプロットをどうするべきとの考えか。新規プロットの設定として位置を変える具体的な提案があるのか。
- ・静岡側の林道は復旧する見込みがないため、現地調査には光岳小屋を使つての登山での調査になると思慮。
- ・大井川源流部原生自然環境保全地域が保護林の北側と一部でエリアが重なっていることから、関連する調査結果等の情報も参考にすること。

○上野檜原シオジ等生物群集保護林について

- ・課題にある「実生の育つ環境の保全」について。更新にギャップが必要というシオジの性質から、防護柵で囲んだ中にギャップを作るといった補助更新作業が必要となってくるが、現実的な予算などを考えるとこうした作業をすべての保護林で実施することは難しい。

○深沢ヒノキアスナロ希少個体群保護林について

- ・ヒノキアスナロにテングス病の被害が出ていることで調査間隔は5年となっているが、テングス病自体は個体が枯れるような怖い病気ではなく、被害が拡大している様子も見られないため、調査間隔を5年にするのか10年にするのか検討が必要。

○赤谷山スギ遺伝資源希少個体群保護林について

- ・クマ剥ぎ被害がスギの樹勢に影響を及ぼすところまでは至らずとしているが、写真を見ると影響があるように思うので、表現を見直すこと。

○元清澄山ツガ・ヒメコマツ遺伝資源希少個体群保護林について

- ・聞き取り調査での「薬剤樹幹注入実施予定」の記載に関して、実施されたかどうかを確認して報告書に記載すること。

（調査全般について）

- ・到達不可の保護林に関し高解像度の衛星写真の活用を検討しており、Google Earthの画像とあわせて、報告書に結果をまとめる予定。
- ・保護対象種が見られなくなっている保護林やシカ害が深刻な保護林に対し、危機的な状況であることを評価基準に基づき判断し、重点的に対処する等の緊急対策を講じるような仕組み作りを検討すべき。
- ・調査データについて、これまで蓄積してきたデータ（樹種別本数や胸高断面積等）を過去からの推移が分かる形に取りまとめるよう検討を。
- ・今後の保護林調査について、効率化や正確性の向上を目的に、ドローンや地上レー

ザなど新しい技術を活用した調査方法等の提案を。

(2) 令和6年度保護林等モニタリング調査について

- ・上越森林計画区の火打山周辺ライチョウ希少個体群保護林について、特にライチョウの生息環境の考察については県や環境省の調査結果を参照の上、調査を実施・取りまとめをお願いしたい。